

合アス千 連携して課題対応を 県との意見交換会開催

千葉アスファルト合材協会と県の意見交換会が7日、千葉市内のホテルプラザ菜の花4階特別会議室で行われた。小松弘之・幹事長（柳サンドテクノ）による開会の辞を経て、代表者

あいさつに立った神谷宏人・理事長（東瀛青建設㈱）は、近年の課題として、アスファルト合材の出荷量の減少傾向、エネルギー・資材価格の高騰、物流業における人手不足に伴う運搬価格の上昇、再生骨材の余剰問題、脱炭素化の取り組みなどを列挙。「われわれの業界にまつわる課題は多面的になっており、個別企業や個別工場での対応では難しい。県や関係自治体の皆

さまと連携し、対応していくことが重要と考えている」と話し、意見交換会がそのきっかけとなるよう祈念した。

人手不足に関しては「われわれの業界にも重くのしかかっている」と吐露。「就業環境改善に向け、土日の工場閉所に取り組んでいるが、実施状況は頭打ちとなっている。工事発注者の知恵を借り、顧客である工事施工業者とも連携して取り組んでいかなければならない」との認識を示した。

意見交換会は1995年から行っており、2016年以降、5年間の中断を経て21年に再開した。今回は再開後4回目（23年は非開催）、通算では25回目の開催となった。

業界を取り巻く課題を挙げる神谷理事長

花岡信明・県土整備部技術管理課長は「最も重要な社会インフラである道路の骨格となるアスファルトについて、安定した品質・供給体制を構築していただ

小松幹事長が協会側の出席者、酒井雄基・同課技術情報班長が県側の出席者を紹介した後、浦郷義浩・副幹事長（太陽建設㈱）が進行役を務め、議事を行った。

議題は▽合材工場を取り巻く環境▽中温化アスファルト混合物の動向▽第二、第四土曜日・日曜日閉所の取り組み・実施状況▽アスファルト合材の安定供給に向けた課題と取り組み▽合材数量等の状況報告（アスファルト合材製造数量、溶融スラグ入り合材製造状況、廃材受け入れ数量）など。

楠岡幸久・副理事長（太陽建設㈱）が閉会の辞を述べ、解散に至った。

安定した品質・供給体制の構築に謝意を表する花岡課長

中温化アスファルト混合物の動向などを議題とした

楠岡幸久・副理事長（太陽建設㈱）が閉会の辞を述べ、解散に至った。

楠岡幸久・副理事長（太陽建設㈱）が閉会の辞を述べ、解散に至った。

楠岡幸久・副理事長（太陽建設㈱）が閉会の辞を述べ、解散に至った。

開会の辞を述べる小松幹事長

開会の辞を述べる小松幹事長

開会の辞を述べる小松幹事長

開会の辞を述べる小松幹事長

開会の辞を述べる小松幹事長